

2015.7/ No.145

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

Topics

西尾章治郎

次期総長予定者に聞く

環太平洋大学協会 (APRU)

第19回年次学長会議を開催

平野俊夫総長最終講義

濃いつ!阪大

コモンズ入門編

夏^{たたかい}の節電編

Contents

Topics

- 04 西尾章治郎
次期総長予定者に聞く
- 06 環太平洋大学協会 (APRU)
第19回年次学長会議を開催
- 08 平野俊夫総長最終講義

濃いっ! 阪大

- 10 コモンズ入門編
- 16 夏の節電編 ななかい
- 18 役員室だより
- 27 人事／表彰・受賞等／訃報
- 30 阪大の組織 A to Z「教員・職員・学生 みんなで『〇〇〇!』」
- 32 ほっとニュース
- 34 Information



【表紙写真】
総合図書館 自動書庫
製本雑誌を中心に図書館資料が
60万冊収蔵可能です。
表紙写真撮影：クリエイティブユニット

Topics

平野俊夫総長最終講義を開催

7月14日(火)、8月25日に任期満了となる平野俊夫総長の最終講義が、大阪大学コンベンションセンター MO ホールで開催され、学内の4会場にも中継されました。教職員、学生など約640名が聴講しました。



西尾章治郎 次期総長予定者に 聞く

次期総長予定者に決まった西尾章治郎 情報科学研究科教授（サイバーメディアセンター長）。平成27年8月26日から第18代総長に就任します。任期は平成33年8月25日までの6年間。就任前の西尾教授に聞きました。

抱負 「一人ひとりの真価を阪大の進化に」

大阪大学第18代総長予定者に選出されてから、伝統ある大阪大学の今後の舵取りを担うことになる責任の重さを改めて感じています。私の任期は、来年度から始まる第3期中期目標期間の6年間とほぼ重なります。ご承知のとおり国立大学を取り巻く状況は極めて厳しいものがありますが、次の第3期は日本の国立大学にとって歴史的な転換点になります。また、大阪大学にとりまして、その将来に向けて、構成員一人ひとりが持つ豊かな「真価、つまり真の価値」を大学のさらなる「進化 (evolution)・発展」につなげて、社会の負託に応えていけるか否かが問われる重要な時期です。

そこで、「6年間で力強い礎を築く」、「一人ひとりの真価を阪大の進化に」を総長任期中のモットーにしたいと思います。そのモットーのもと、加速化するグローバル化の中で本学は、大阪大学憲章の基本理念に謳われている「改革の伝統」を

尊重し、「継承」と「刷新」と「新機軸」とを組み合わせた「実効性ある改革」を遂行していく所存です。

その遂行にあたり、所信表明書に記載した次の5項目を基本方針といたします。

1. キャンパスのグローバル化の推進
 2. 「教育の阪大」の特色を活かした人材育成
 3. 「研究の阪大」のマルチ展開の促進
 4. 構成員との協調による課題解決
 5. 財政ビジョン策定のもとでの柔軟な財務運用

そして、改革を進めていく上で、総長のリーダーシップは大学構成員の合意形成があってこそ、力を発揮するものと考えています。

大阪大学の源流である懐徳堂の第四代学主、中井竹山先生は、「学校の衰へは、世の衰ふる基」という言葉を残されています。今まさに、この言葉を反芻するとともに、大阪大学の「いま」を預かっている私たちは、世のために本学を衰えさせるこ

となく、「進化・発展」させ、世界屈指の研究型総合大学として次世代にバトンを渡す責務を負っています。総長就任のあかつきには、全身全霊の力を込めてその任を果たしていく所存です。

最近の学術政策活動 「学術研究は国力の源」

文部科学省においては、科学官時代から培ってきた人的ネットワークによって科学技術・学術政策に深く関わってきました。最近の特筆すべき活動としては、「学術の基本問題に関する特別委員会」の主査として、「国力の源」としての学術研究の重要性、それを支える基盤的経費と競争的経費のバランスの取れたデュアルサポートシステムの必要性、さらには人文学・社会科学の振興の重要性を強調し、特に現代的要請である挑戦性、総合性、融合性、国際性によって我が国の新たな強みを創出していくことを提言いたしました。

専門分野 「ビッグデータ時代を先導する研究」

最近特に、電子化された超大量のデータ（ビッグデータ）を社会経済活動、科学技術や学術振興、

文化的活動、さらには日々の日常生活において有効利用するための情報技術が世界的に重要視されています。その中心を成す「データ工学」の研究を専門としてきました。1992年に工学部教授就任以降、指導してきました多くの学生・社会人のうち50名近くが博士の学位を取得したことを誇りとしています。

趣味 「小・中学生時代は スポーツ三昧の日々」

小・中学生時代は年間を通じてスポーツ三昧の日々を過ごし、豪雪地（岐阜県高山市国府町）で育ったこともあり、幼少の頃からスキーに親しみ、中学生のときに県大会においてスラロームで優勝したこともあります。郷里が北アルプスに近いこともあって登山も趣味で、槍・穂高連峰、立山・剣岳などにも登ってきました。また、絵画鑑賞も好きで、以前は絵画展にしばしば出かけ美術館巡りを楽しんでいました（最近はなかなか時間がありません）。特に印象派の絵画が好きで、セザンヌやゴッホと縁のある南仏の街々を訪ねたこともあります。

西尾 章治郎（にしお しょうじろう）

学歴・職歴
1951年生まれ。75年京都大学工学部卒業、80年同大学院工学研究科博士後期課程修了（工学博士）。京都大学工学部助手、カナダ・ウォータールー大学客員研究助教授、大阪大学基礎工学部助教授、情報処理教育センター助教授を経て、92年同工学部教授。その後、大阪大学サイバーメディアセンター長（初代）、同大学院情報科学研究科教授（現在に至る）、同研究科長、大阪大学総長補佐、2007年～11年同理事・副学長。現在、同サイバーメディアセンター長。

政府関係委員
文部科学省科学官、同科学技術・学術審議会委員、同文化審議会臨時委員、同大学設置・学校法人審議会専門委員、日本学術会議会員（情報学委員長）、内閣府総合科学技術会議専門委員、日本学術振興会産学協力総合研究連絡会議委員、科学技術振興機構研究主監（PD）、日本ユネスコ国内委員会委員をはじめ多くの委員を歴任。

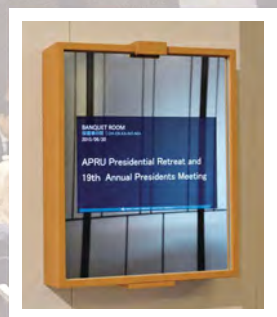
受賞・表彰
紫綬褒章、文部科学大臣表彰、電子情報通信学会業績賞・功績賞、情報処理学会功績賞、日本データベース学会功労賞、立石賞功績賞、船井情報科学振興賞をはじめ多数の賞を受賞。IEEEをはじめ日本工学会、情報処理学会、電子情報通信学会のフェローの称号を授与される。



大阪大学の主催で環太平洋大学協会 (APRU) 第19回年次学長会議を開催

6月28日から30日にかけて、環太平洋大学協会（APRU）の第19回年次学長会議を開催しました。日本での当会議の主催は、2008年の慶應義塾大学での開催に続き2回目となります。45大学の加盟校から、南カリフォルニア大学、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、シンガポール国立大学、マラヤ大学等が参加し、日本の加盟大学からは、本学を含め、慶應義塾大学、早稲田大学、京都大学が参加し、25大学の学長とその他の参加者を含め106名が参加しました。

今回の年次学長会議では“University as an Agent for Global Transformation”（グローバルな変革の主体としての大学）をテーマに21世紀における大学のミッションを再考し、グローバルな変革の主体的な担い手としての大学の役割について議論を行いました。また、会議に先立って28日には大阪大学説明会とキャンパス見学を通じて、大阪大学の研究力の高さを大きく世界にアピールする機会となりました。



環太平洋大学協会 (APRU)

環太平洋地域を代表する45大学の学長で構成され、各国・地域の高等教育の相互協力を強め、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題について教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年に設立されました。年次学長会議は、各主催大学の持ち回りにより、年に1度開催され、来年はマラヤ大学（マレーシア）で開催されます。



免疫学者として、総長として ～来し方を思い、未来を想う～

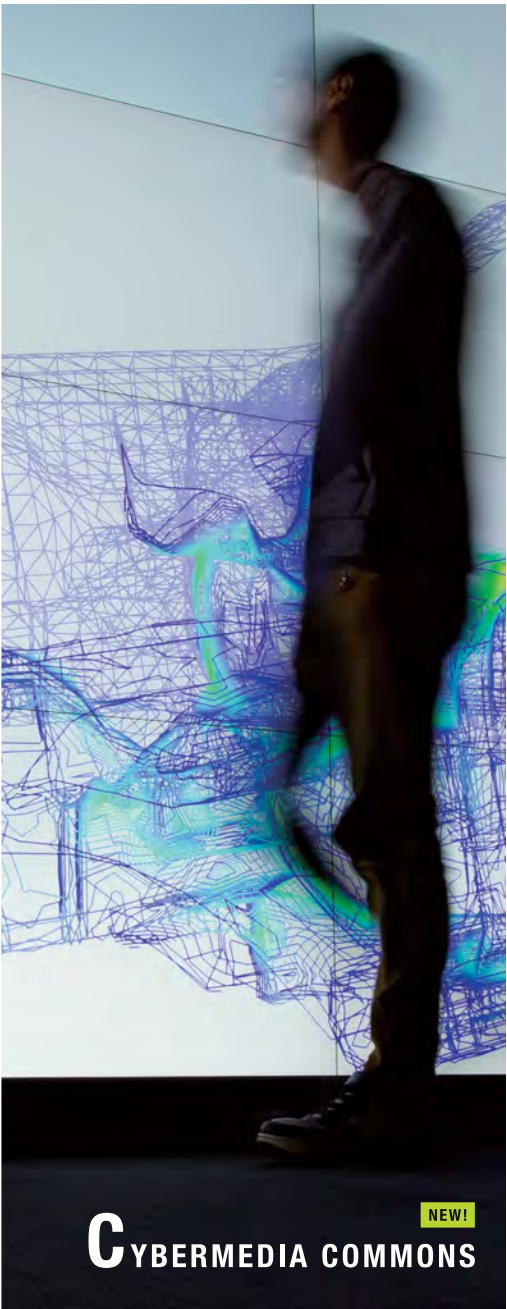
平野俊夫総長最終講義

大阪大学を
世界に開かれた大学、世界に貢献する大学、そして
世界に冠たる大学『世界適塾』として成長させてほしい

これまでの研究者生活や総長として大阪大学で過ごした49年間の思い出にふれ、「夢に向かって目の前にある課題を一つひとつ乗り越えるプロセスが人生を豊かにしてくれる」と語り、教職員や学生に、「物事の本質を見極め、世界に羽ばたいてほしい。大阪大学を世界に開かれた大学、世界に貢献する大学、世界に冠たる大学『世界適塾』として成長させてほしい」と期待を込めメッセージを送りました。

最後に、49年間大阪大学でお世話になった多くの方々に感謝の意を述べられ、会場から惜しめない拍手が送られました。





コモンズ入門。

気が付けば、大阪大学には「コモンズ」と名のつく空間がたくさん。
ステューデント・コモンズ、ラーニング・コモンズ、グローバル・コモンズ・AVコモンズ、
サイバーメディアコモンズ。他にもまだまだ新しいコモンズが現れるかもしれません。
コモンズにはいつ訪れても学生がいます。どのようにコモンズを使っているのでしょうか？
また、それぞれのコモンズはどのような特徴があるのでしょうか？
コモンズについて調べてみましょう。
そして、まだ使ったことのない学生に「こんな良いところがあるよ」とすすめてみましょう。



ほぼ毎日来てますね。今日は院試に向けて、研究室は違うんですが同い学年の1年からの友人たちと勉強しました。

院試に向けて頑張る
4年・男子



授業以外にもサークルとかの打ち合わせで使っています。広くなってきたです。

2年・女子



ラーニング・コモンズ

(各キャンパスの附属図書館)

2009年に総合図書館(豊中キャンパス)と理工学図書館(吹田キャンパス)に開設。その後、外国学図書館(箕面キャンパス)、生命科学図書館(吹田キャンパス)、と順次すべての附属図書館に同様のスペースが設けられた。その後、2014年～2015年にかけて総合図書館と理工学図書館ではスペースの拡張や新しい機器の導入などを行い、アクティブ・ラーニング・スペースの充実を図っている。



ラーニングコモンズ等では 学習相談にのってくれるTAがいる!

司法試験の勉強法を教えてほしい等の専門の質問を受けたり、留学生からは就活のエントリーシートの日本語のチェックをしてほしいとお願いされたりします。時々専門外の理系のコアな質問を受けて困ることもありますね。その時は別のTAにお願いしています(笑)。

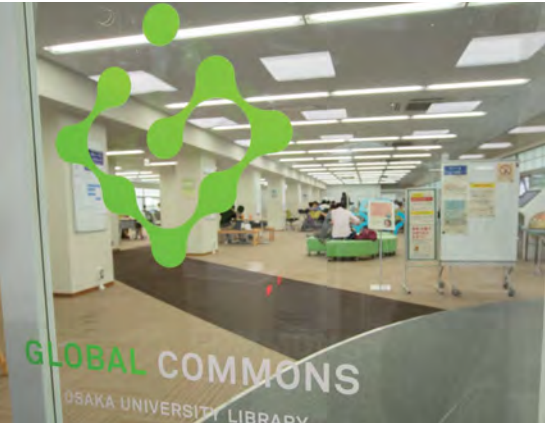
高等司法研究科3年 久保さん

グローバル・コモンズ

(豊中キャンパス)

2012年総合図書館(豊中キャンパス)に開設。学生の利用頻度は高く、試験期間中には、このエリアは24時間開放されている。

2013年には、日経ニューオフィス賞において、近畿ニューオフィス特別賞「ラーニング・コモンズ賞」を受賞。



僕の場合、空いているかどうかでどのコモンズを使うか決めてますね(笑)。



教職課程を受ける
1年・男子

色んな授業でグループを作って課題にあたるというのが多いので、コモンズはよく使います。



2年・女子

1人の時でも使えるスペースがあるので、試験勉強に使ったりしていますね。



M1・女子

ステューデント・コモンズ

(豊中キャンパス)

学生同士あるいは学生と教職員との対話、学生・教職員企画のイベント、留学生との交流、その他様々なイベントに利用されている共有空間。

1階のQuartierは「カフェゾーン」「情報ゾーン」「自習ゾーン」から構成され、屋外デッキも設置。2007年に豊中キャンパスの全学教育推進機構総合棟IIに設置され、10年には「日経ニューオフィス賞」を受賞。



AVコモンズ

(箕面キャンパス)

外国学図書館の4階にあり、隣接するAVライブラリーの視聴覚資料や音声資料をグループで利用可能。9か国語の衛星放送の視聴も可能。

4ブースと70インチの大型モニター1台を備え、利用人数や用途にあわせ20席を自由にレイアウトできる。(AVライブラリーは、個人で利用する施設)



併設されているAVライブラリー



NEW!
吹田キャンパスに学生がくつろげる空間が!
サイバーメディアコモンズ

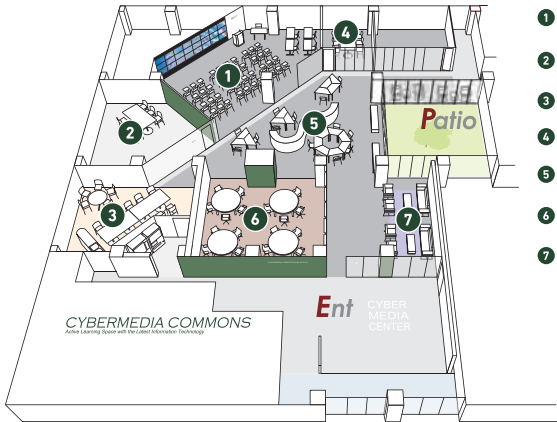
この5月、新たなコモンズが登場

吹田のサイバーメディアセンター内に、学生や研究者が自由に議論できるアクティブラーニングスペースが完成。6.5m×2.4mの大画面で、世界最高水準の大規模立体可視化システムが設置されたレクチャールーム「Mishité(ミシテ)」や、3Dプリンター、大判プリンターなど普段は使えない高性能機器が利用できる「i→Re(イーレ)」等がある。何より、吹田キャンパスには少なかった、学生が自由に語らい、くつろげる空間として期待できる。また、このコモンズは2014年に学生によるデザインコンペが行われ、学生の意見が取り入れられた空間となっている点もユニーク。

私のゼミでは、大画面のスクリーンを使ってもらってミーティングをしています。建築分野は図面を印刷する必要があるので、大判プリンターが使えるのも有難いですね。オシャレな空間ですし、吹田の学部生にとっては、気軽に立ち寄ってゆっくりできる場所が少ないので、今後はそういう場所になればいいと思います。



利用者のサポートをしてくれる
学生スタッフ・西尾さん(工M2)



- 1 **Mishité** ビジュアライゼーションラボラトリー
- 2 **i-Re** ファブリケーションラボラトリー
- 3 **Café** カフェ
- 4 **Meeting** ミーティングルーム
- 5 **Freesp** フリースペース
- 6 **e-Lounge** CALL システム
- 7 **Lobby** ロビー



平成27年度 前期開講
期間: H27 7/1~9/30

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

節電法概論Ⅰ

担当教員 ワニ博士

ワニ博士ステッカー貼り付け
フィールドワーク
実施中!

【教材】研究室・日常で使える
ワニ博士の節電ステッカーを
研究室に配布中!

※希望者多数の場合は
先着順

希望研究室は、代表者が
環境・エネルギー管理課(内線[吹]4883)まで
ご連絡ください。

希望研究室は、代表者が
環境・エネルギー管理課(内線[吹]4883)まで
ご連絡ください。

「今年も!」
節電にご協力をお願いします。

COOL SHARE

た た か い

節電の時が来た。 深刻な状況です。

大阪大学では、さまざまな省エネ活動を通して、教育・研究活動を妨げない省エネルギーに努めています。今夏の取り組みとして、7月1日から9月30日まで夏季の節電・省エネ計画を実施しています。節電・省エネの一層の推進を図るには、一人ひとりの節電意識を高め、全構成員が、出来ることから節電・省エネに取り組む必要があります。また、近年の電気料金値上げの影響により、エネルギーコストが増大し、本学にとって深刻な状況になってきています。

【夏季の節電・省エネ計画】

「平成27年度夏季における大阪大学節電・省エネ計画」を掲げ、教職員や学生を含むすべての構成員で推進しています。

1. 計画内容

計画期間：

平成27年7月1日～平成27年9月30日

計画目標値：

ピーク電力の削減(平成22年度比10%削減)

2. 主な取組事項

- ・執務室、研究室、廊下など支障のない範囲で照明の間引き
- ・使用していない部屋の空調や照明OFF
- ・スイッチ付近に消し忘れ防止シールを貼付
- ・OA機器等の待機電力の抑制
- ・実験用冷凍、冷蔵庫等の整理及び集約化
- ・不使用時の実験機器等の可能な限り電源の停止
- ・24時間稼働機器の運転見直し
- ・室温28℃を目安に冷房温度を調整
- ・ブラインドやよしず、扇風機等の積極的な利用
- ・空調機フィルターの清掃
- ・便座ヒーターの停止 他

3. 節電対策のポイントは「24時間稼働機器」

大阪大学では、人の活動に関係無く常時稼働している「24時間稼働機器」(例えばサーバーや冷凍・冷蔵庫・フリーザー、実験機器等)が年間電力消費の約8割を占めており、これらの機器の運用改善を行うことは、大きな節電効果があると考えています。

※詳しくは、環境・エネルギー管理部ホームページ『平成27年度夏季における大阪大学節電・省エネ計画』をご覧ください。

【増え続けるエネルギーコスト】

大阪大学は、エネルギー消費の85%を電力に依存しています。

1. 電力単価1円値上げで2億円増

大学全体で1年間に約2億kWhの電力を使用します。電気料金単価が1円値上げすると約2億円電気料金が増加します。今年度も5月に再生可能エネルギー発電促進賦課金が約1円値上げとなり、10月には電気料金単価が約2円値上げとなる予定です。

2. 電気料金が5年間で2倍

平成25年度以降、建物面積は増加していますが、使用電力量はほぼ同量となっています。しかしながら、電気料金は急激に増加しています。

平成24年度に比べ、平成25年度から平成29年度の5年間で、電気料金は約2倍となる見込みです。

3. 本学の深刻な状況

電気料金の急激な増加により、各研究室への運営費交付金配分額が減額される等、教育・研究活動に深刻な影響を及ぼし始めています。



【省エネルギー・節電に関する連絡先】
大阪大学環境・エネルギー管理部(本部棟4階)
TEL:06-6879-4883 FAX:06-6879-7138
kankyou-kikaku@office.osaka-u.ac.jp
<http://www.eem.osaka-u.ac.jp/HP/>

大阪大学箕面キャンパスの移転

6月17日(水)、大阪大学と箕面市は、大阪大学の教育研究の発展及び学習環境の向上と、箕面市の活気あるまちづくりを実現するため、大阪大学箕面キャンパス(箕面市粟生間谷東地区)を北大阪急行線延伸に伴い整備される「(仮称)箕面船場駅」東隣(土地区画整理事業予定地内)に移転することについて、覚書を交換しました。

また、大阪大学箕面キャンパス移転後の跡地については、箕面市が保有し、大阪大学と連携しつつ、スポーツ施設の整備など有効活用を検討します。

今後、さらなる具体案の検討を進め、平成28年4月の合意書締結をめざします。



覚書を交換する倉田箕面市長（左）と平野俊夫総長



新キャンパス・イメージパース

1. キャンパス移転による効果

新駅周辺へのキャンパス移転により、大阪大学と箕面市が共に飛躍・発展する起爆剤となります。

(1) 大阪大学の効果

◇大学のグローバル化を推進するための活動拠点となります。

◇周辺の箕面市の施設とも連携し、社会に開かれた大学として、社会・地域貢献機能の強化を行います。

(2) 箕面船場のまちづくりへの効果

◇学術研究という“文化”そのものがまちの魅力となると同時に、新キャンパス周辺に大学発ベンチャー企業を集積するなど、新たな可能性が広がります。

◇閉じられたキャンパス内ではなく、街なかで常に数百～数千人の学生・教員が活動することで、商業や市民活動の大きな活力となります。

2. 新キャンパスのポテンシャルと現キャンパスの跡地活用

(1) 大阪大学箕面新キャンパスのポテンシャル

◇大阪大学は世界トップ10をめざしており、箕面キャンパスの移転は、「世界適塾構想の柱となるプロジェクト」となります。

◇箕面新キャンパスは、大阪大学の全てのキャンパスをT字に結ぶ結節点となり、有機的なキャンパス間連携を実現します。

◇大阪大学初めての都市型キャンパスとして、駅前の地域に溶け込んだ新しい魅力あるキャンパスになります。

(2) 現キャンパスの跡地活用

◇現キャンパス移転後の跡地については、市が保有し、大阪大学と連携しつつ、スポーツ施設(総合運動場等)の整備を含め、有効な活用を検討します。

理事・副学長 恵比須 繁之



平野総長談話

2007年に大阪外国語大学と統合して以来、箕面キャンパスの問題は大阪大学にとって最大の解決すべき課題でありました。現在、大阪大学は豊中、吹田、箕面の3つのキャンパスに分散しており、スクールバスを走らせるなどして学生の授業への影響、負担の軽減を図っています。また、箕面キャンパスの建物の老朽化と利活用方策などが喫緊の課題となっており、総長就任にあたってこの問題を引き継ぎ、この4年間様々な問題解決策を考えてまいりました。しかし、財政的な問題もあり解決は容易ではありませんでした。

このような状況の中で、昨年、箕面市から2020年度の「北大阪急行線」延伸に伴う「箕面船場駅前整備構想」の核として、箕面船場駅の駅前に箕面キャンパスを移転する案が提示されました。最初お聞きした時は長年の懸案が一挙に解決する夢のある話と思い、大阪大学として予備的検討をさせていただきたいとお返事申し上げました。その後、箕面市と大阪大学との間で詳細な検討を続けてまいりました。

今回の「箕面新キャンパス」整備は、単なる外国学部の移転ではなく、大阪大学が進めている世界に開かれた大学、世界に貢献する大学、「世界適塾」構想の柱の一つとなる大きなプロジェクトと位置付けており、大阪大学外国語学部を誘致する構想について箕面市と連携して進めることとしました。

新キャンパスは豊中、吹田キャンパスの中間に位置する箕面船場駅前に「都市型キャンパス」として整備を計画するものであり、「地域とのコミュニティの形成、連携」「箕面市との施設の相互利用」等の価値が期待できます。豊中、吹田、中之島センター、そして適塾などの大阪大学の主要施設と、大阪市内、新幹線や大阪空港とも20～30分の距離であり、いわば「T字型ライン」に立つアクセスのよさは大きなメリットです。新キャンパスは、将来「世界適塾」としての大阪大学のヘッドクォーターとしての機能を果たすことが期待されます。

このように箕面市と大阪大学の双方にとって立地条件のよさ、将来の発展を見込める場所であり、箕面船場駅への移転は未来を見据えた夢のある案と考え、本日、基本合意に至りました。そして、2016年4月の正式合意に向けた具体の協議を始めることとしました。大阪大学として積極的にこの移転プロジェクトを推進し、「世界適塾」の要となるプロジェクトとして大阪大学創立90周年を迎える2021年の新キャンパスオープンを目指したいと考えています。

2015年6月17日

大学機関別認証評価の受審

大学機関別認証評価とは、国内の全ての大学が7年に1度、文部科学大臣から認証を受けた評価機関による評価を受ける制度で、その評価結果は教育活動等の改善に役立てられます。

本学は、平成21年度に第1回目を受審し、「大学評価基準を満たしている」と評価され、改善を要する点として指摘された入学定員充足率の状況についても、その後、改善に向けた取り組みを進めてきました。

今年度は、第2回目の認証評価を受審するもので、第1回目と同様に(独)大学評価・学位授与機構を評価機関として選択し、6月末に自己評価書を提出しました(自己評価書は、本学公式ウェブページに掲載しています。トップページから、「認証評価」で検索してください)。同評価書の作成に際して、各種調査等にご協力いただきました学部・研究科等関係者の方々にに対し、お礼申し上げます。

なお、本年11月5日(木)、6日(金)には、同機構による訪問調査の実施が予定されており、役員のみならず、教職員並びに学生の方々数名に出席いただくことになりますので、その際にはご協力をお願いいたします。

理事・副学長 恵比須 繁之



平成 21 年度認定証

第3期中期目標・中期計画(素案)を策定

平成 28 年度から始まる第3期中期目標・中期計画(素案)を教育研究評議会、経営評議会の議を経て、6月末に文部科学省に提出しました。

今後は、国立大学法人評価委員会の審議を経て、来年1月末までに第3期中期目標・中期計画(原案)を提出する予定です。

なお、第3期中期目標・中期計画(素案)の概要は以下のとおりです。

【中期目標の前文】

- 大阪大学は、緒方洪庵の適塾の精神を継承し、世界に開かれた大学、世界に貢献する大学、「世界適塾」となることを志す
- 「学問による調和ある多様性の創造」を理念に掲げ、「物事の本質を見極める」高いレベルの学問を追求する
- 新たな学術領域の創造、専門分野を超えた「知の統合」を通じて地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出

第 3 期中期目標・中期計画（素案）の主要事項	
教育	高度な専門知識と豊かな教養、高いデザイン力を有し、社会を牽引する「知」を備えた人材を育成 ●新たな学位プログラムの構築、高度汎用力教育プログラム等の実施 ●教育の質保証と国際標準化（シラバスの実質化、科目番号制の導入等） ●クォーター制（3 学期及び夏季講習期間）の導入 ●新たな総合入試制度（世界適塾入試）を平成 29 年度から導入し、入学定員の約 10%を受け入れ
研究	イノベーションの推進や心豊かで平和な社会の実現のため、学内の多様性を強みとした異分野融合による新たな学術領域の創造と学術研究の推進により、学問の府として物事の本質を究める基礎・基盤研究を振興 ●国際共同研究推進プログラムによる国際ジョイントラボを増加（平成 33 年度末までに 80 件） ●未来戦略機構に新たな研究部門を 1 0 部門創設 ●優れた業績を誇る研究者の招へい（特別教授制度や評価運動型年俸制、クロス・アポイントメント制度等の活用） ●若手研究者の支援（若手研究者キャリアアップ支援プログラムやチャレンジ支援プログラム等）
社会貢献・社会連携	社会ニーズを先取りしたオープンイノベーションを創出すべく、産学官の戦略的かつ包括的な連携を強化・推進し、本学の研究成果を国内外に広く還元 ●協働研究所や共同研究講座を通じた「インダストリー・オン・キャンパス」の深化（平成 33 年度末までに新たに 40 件以上設立） ●研究者の研究成果公開活動（アウトリーチ活動）の推進
グローバル化	徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、「調和ある多様性」を具現化する世界展開力を強化 ●学生の海外派遣増加、留学生の受入増加（平成 33 年度末までに派遣 8 %、受入 15%） ●大学間学術交流協定の増加（平成 32 年度末までに 120 件） ●外国人数員を増加（平成 33 年度末までに 400 名程度）
業務運営	総長のリーダーシップのもと、機動的・弾力的な組織運営を行い、「世界適塾」実現に向けた経営戦略に基づくガバナンスを構築 ●大学の強みや特色を生かした機動的なガバナンス体制を構築 ●学内資源の戦略的な配分

理事・副学長 恵比須 繁之

「世界適塾ビレッジ」第I期事業の選定手続きを開始

昨年の役員会において決定した「世界適塾ビレッジ」第I期事業の実施事業者の選定手続きを開始しました。

「世界適塾ビレッジ」ー Global Village ーは、留学生を含む学生、教職員及び研究者が同じ場所で生活・交流を行う新しい宿舍計画であり、既存の教職員宿舍の廃止、学寮の混住化等を含め、最終的に学寮・教職員宿舍計 2,600 戸の国際的生活環境を生み出すことを目指しています。「世界適塾ビレッジ」においては、居住者の垣根を越えた交流によるインタラクションの実現を目標とし、教育機能を重視し、高い識見と人格、リーダーシップとコミュニケーション能力を備えた、世界に活躍するグローバル人材育成の拠点と位置付けています。

その第I期事業として、吹田市津雲台にPFIの手法を用いて整備を行い、約700戸程度の宿舍・寮が新たに完成する予定です。

現 教職員宿舍 津雲台宿舍	
廃止・解体	297 戸
土地面積	約 23,800 m ²



学寮	教職員宿舍		
日・留混住	独身用	単身用	家族用
約 300 戸	約 320 戸	約 40 戸	約 40 戸
シェアタイプ	1R	1LDK	3LDK
延床面積		約 24,000 m ² 程度	
民間収益施設		土地を民間貸付→利用者負担額等の軽減	

現在、「世界適塾ビレッジ」施設整備運営事業提案審査委員会を立ち上げ、公募に向けた手続きを開始したところであり、本年度中に本事業を実施する事業者の選定を予定しています。平成 29 年から工事に着手し、平成 31 年度より運用開始の予定です。

理事・副学長 恵比須 繁之

施設整備とキャンパス環境の改善

◆工学M3棟

6月に、吹田キャンパス工学部エリアに改築された「工学M3棟」が完成しました。この建物は隣接する「工学M1棟」とともに、環境とのづくりに関わる、工学研究科の実験研究棟として整備されました。環境・エネルギー工学、機械工学、精密科学、高度で実践的な教育の場である未来工学ファクトリといった異分野が集まることで、これらの融合によるイノベーション創出が期待されます。



(工学M 3 棟)
地上 5 階建て 延べ面積 6,850 m²

◆オンコロジーセンター棟

同じく6月に、医学部附属病院北側に「オンコロジーセンター棟」が完成しました。この建物には、がんに対する高度な薬物療法を安全に実施することができる化学療法室が設置されているのみならず、がん相談室も併設し厚生労働省指定の『地域がん診療連携拠点病院』としての機能強化も目指しています。

本建物の外観は周辺の附属病院建物群と調和し、内装については治療を受ける方が快適に過ごせ、安らぎを感じられる空間となっています。



(オンコロジーセンター棟)
地上 5 階 地下 1 階建て 延べ面積 3,471 m²

理事・副学長 恵比須 繁之

役員室だより

大阪大学未来基金 学部学生による自主研究奨励事業 ～「おもろい!やってみなはれ@阪大」プロジェクト～

大学に入るとできるだけ早い時期に「教わる」から「自ら学ぶ」姿勢へと転換することが大切です。大阪大学では基礎セミナーなど対話型の初年次教育によってその機会を提供しています。大阪大学未来基金では平成27年4月から自ら学ぶ態度を身に付けた学部1～3年生を対象として、学部生の自由な発想に基づく自主研究奨励事業を開始しました。

自ら見つけた課題について研究したい学生はその課題に詳しく教員を探し出して、アドバイザー教員になって貰うように説得し、引き受けてもらえたら研究計画書を提出します。研究計画が採択された学生には10万円を上限として研究費が支給されます。アドバイザー教員にもTA雇用などの研究支援経費として10万円が配分されます。初年度となる今回は59件を採択しました。本事業の研究成果発表会は来年5月のいちよう祭で開催されます。

大阪大学の学生には、簡単なことでも良い、知を創造する仲間になったという意識を持って欲しいと思っています。

詳しくはWEBページをご覧ください：
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/oumode/education_env/ug_jishuken

理事・副学長 東島 清
理事・副学長 大竹 文雄



最近の大学ランキング

6月10日にQuacquarelli Symonds (QS) 社から「2015年アジア大学ランキング」が発表され、下の表のように、大阪大学は13位（国内2位）にランクされました。なお、QS社の世界大学ランキングについては、昨年9月16日に発表されたものが最新で、大阪大学は55位（国内3位）にランクされています。

一方、6月11日に発表されたタイムズ社のTimes Higher Education (THE)「2015年アジア大学ランキング」では大阪大学は18位（国内4位）にランクされました。THEの2014年世界大学ランキングでは157位（国内4位）でした。

このようにランキングによって大阪大学の順位が異なっているのは、それぞれが使っている指標とデータが違うからです。また、これらの2社は世界の高等教育機関に関する情報を提供する営利企業であって、指標とデータの合理性が保証されているとは必ずしも言えない、との指摘もあります。

とは言え、大学ランキングを無視することはできません。留学生は志望校の選択にランキングを参考にするからです。その順位を上げる一つの有効な方法は、指標のかなりの部分が研究者による評判（QSアジアで30%、QS世界で40%、THEでは33%）によりますから、大阪大学の個々の研究者がいろいろな機会をとらえて、自分の研究成果を宣伝することも大事です。

理事・副学長 相本 三郎

	QS アジアランキング				
	2011	2012	2013	2014	2015
東京大学	4	8	9	10	12
大阪大学	8	11	15	13	13
京都大学	7	10	10	12	14
東京工業大学	9	13	13	15	15
東北大学	9	14	17	18	20
名古屋大学	14	18	18	20	21
北海道大学	20	23	24	23	25
九州大学	18	22	20	24	28

若手研究者キャリアアップ支援プログラムを創設

明日の大阪大学を支える若手研究者に対し、多くの研究の芽を育てるとともに、研究の多様性を確保することを目的として、「大阪大学若手研究者キャリアアップ支援プログラム」を創設しました。

このプログラムは、本学の39歳以下の若手研究者を対象とし、平成27年度科学研究費助成事業へ申請したものの惜しくも採択とならなかったものの中から、研究者としてのキャリアアップの可能性が高いと認められるものについて、一年間大学独自財源により、研究に必要な経費の支援を行うものです。

今年度は、学内公募に対して34件の申請があり、選考委員会において30件の研究課題を選定し、1件あたり最大90万円の支援を行うこととしました。

本プログラムでの支援により遅滞なく研究を進め、平成28年度科学研究費助成事業では是非とも採択されることを期待します。

理事・副学長 相本 三郎

ロシア科学アカデミー総裁に大阪大学名誉学位を授与

6月9日(火)、ロシア科学アカデミーのウラディミール・フォルトフ総裁を大阪大学本部に招き、「大阪大学名誉学位記授与式」を挙行了しました。

「大阪大学名誉学位」とは、国際文化交流を通じ、大阪大学の教育研究上、功績が特に顕著であった外国人に授与するもので、フォルトフ総裁は5人目の称号取得者となります。

フォルトフ総裁は、大阪大学との共同研究を、新たな日露政府間共同研究として我が国の国務大臣に直接提案するなど、我が国のみならずロシア連邦において大阪大学のプレゼンスを上げることに大きく貢献されています。

今年の2月9日には、大阪大学とロシア科学アカデミーの間で大学間学術交流協定も締結しており、今回の授与により、今後の大阪大学とロシア科学アカデミーとの学術交流の更なる発展が期待されます。

理事・副学長 相本 三郎



コンプライアンス推進責任者等への説明会を開催

6月30日(火)、コンベンションセンターMOホールで「コンプライアンス推進責任者及び同副責任者説明会」を開催しました。

本説明会は、学内ビデオ会議システムを利用して豊中キャンパスと箕面キャンパスにも会場を設けて、各部局等において不正防止対策を確実に実行し、公的研究費が正しく執行されるように運営・管理を行う実質的な責任と権限を持つコンプライアンス推進責任者及び同副責任者の役割を説明しました。

各責任者等は不正使用防止計画推進室が提供する教育用教材等を活用して、部局内のコンプライアンス教育を実施していただきますようお願いします。

理事・副学長 相本 三郎



ハラスメント相談室だよりを発行

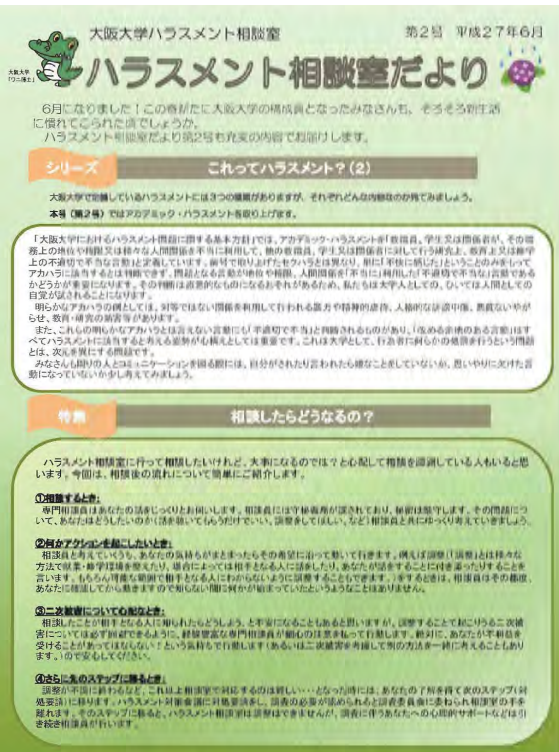
大阪大学では「大阪大学におけるハラスメント問題に関する基本方針」を定め、ハラスメント問題について、良好な教育・研究・労働環境を維持するために、その発生の防止や問題の解決に取り組む大学の姿勢を明らかにし、大学の構成員・関係者に周知しています。

このたび、ハラスメント相談室だより第2号を発行しましたので、是非ご覧ください。

バックナンバー等も、本学公式ウェブページでご覧いただけます。

掲載 URL : http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/prevention_sh

理事・副学長 相本 三郎



平成27年度海外への研究者派遣プログラム／海外からの研究者受入れプログラム(第1回)を選定

国際共著論文の執筆や将来の国際ジョイントラボの設置など、今後の展開が期待できる研究計画を支援することによって本学の研究力強化に資することを目的とし、「海外への研究者派遣プログラム／海外からの研究者受入れプログラム」を実施しています。平成27年度第1回(5月～9月開始分)として、下記の課題を採択しました。

【派遣】

●齊藤 弥生(人間科学研究科 教授)
課題名: 高齢者介護の日独比較研究
派遣先機関名(国名): University of Vechta(ドイツ)

●藤岡 慎介(レーザーエネルギー学研究センター 准教授)
課題名: レーザー生成強磁場による相対論的量子ビームの輸送制御
派遣先機関名(国名): ボルドー大学(フランス)

●辻 拓也(工学研究科 准教授)
課題名: 高濃度固気二相流中における粗大物体運動の超高速MRI計測と数値シミュレーション
派遣先機関名(国名): スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)

●山本 剛史(薬学研究科 助教)
課題名: シアニン系色素の光酸化的結合壊裂反応を利用した精度の高い癌標的化戦略の開発と癌治療応用
派遣先機関名(国名): National Institute of Health(米国)

●境 慎司(基礎工学研究科 准教授)
課題名: 細胞表面への選択的ヒドロゲル被膜形成とそれを利用した細胞分離技術の開発
派遣先機関名(国名): Warsaw Univeristy of Technology(ポーランド)

【受入れ】

今回採択なし

理事・副学長 岡村 康行

平成27年度大阪大学部局主催国際シンポジウム等開催支援事業を選定

本学における学術研究の成果、研究者の活動を広く海外に発信し、海外における本学のプレゼンス向上が期待できるような国際シンポジウム等を組織的に主催する部局に対して、その開催に係る経費を支援しています。

今年度は、学内公募に11件の申請があり、選考委員会において6件のシンポジウムを選定しました。

<採択>

●免疫学フロンティア研究センター
The 5th NIF Winter School on Advanced Immunology
●工学研究科
Japan-Asian CORE Program “Nanophotonics in Asia 2015”

●接合科学研究所
Middle East-Japan International Symposium on Joining Technologies and Materials Science -Developing Research Network-

●蛋白質研究所
アジア・オセアニアにおける蛋白質科学の新たな地平(New Horizons of Protein Sciences Bridging Asia Pacific Regions)

●基礎工学研究科
Second International Engineering Science Consortium Meeting International Symposium on Engineering Science Second International Engineering Science Student Workshop International Engineering Science Student Competition

●文学研究科
人文学における日本研究: 江戸庶民文化の諸相

理事・副学長 岡村 康行

大阪大学ベンチャーキャピタル（株）の投資ファンドに対する本学からの出資100億円が認可

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社（以下「OUVC」）を無限責任組合員とするOUVC1号投資事業有限責任組合（以下「OUVC1号ファンド」）の「特定研究成果活用支援事業計画」に対し、6月4日付で文部科学省・経済産業省から認定を受け、さらに、6月30日付でOUVC1号



ファンドに対する本学からの出資金100億円が、文部科学省から認可されました。これを受けて、その他民間企業から出来るだけ多くの出資を募り、8月には投資業務を開始する予定です。

今後、OUVCは、本学の関連各部署ならびに民間事業者との連携を積極的に進め、研究成果の実用化促進に向けた取組を加速していくことになりますが、OUVC1号ファンド設立後、投資活動の円滑な推進に向け、人員の増強等の体制整備も適宜進めていきます。

理事・副学長 馬場 章夫

〇ご興味をお持ちの方は次までお問い合わせください。
大阪大学 共同研究・事業化推進グループ
E-mail：invest[at]uic.osaka-u.ac.jp



総長・理事・監事（7月21日 総長室）

人 事

新施設長

平成 27 年 5 月 1 日 薬学研究科附属薬学地域医療教育研究センター長

平田収正

受賞(章)・表彰等

— 第4回 大阪大学総長顕彰・総長奨励賞 —

【総長顕彰】

教育部門 (27 名)

文学研究科
伊東信宏 教授
BURDELSKI MATTHEW JAMES 教授
高等司法研究科
水谷規男 教授
国際公共政策研究科
赤井伸郎 教授
人間科学研究科
檜垣立哉 教授
理学研究科
中嶋悟 教授
佐伯和人 准教授
廣野哲朗 准教授
医学系研究科
竹田潔 教授
和佐勝史 教授
歯学部附属病院
長島正 准教授
薬学研究科
平田収正 教授
工学研究科
長谷川和彦 教授
福井希一 教授
藤田喜久雄 教授
藤本公三 教授
山中伸介 教授
渡邊肇 教授
丸田章博 准教授
基礎工学研究科
内田雅之 教授
言語文化研究科
上田功 教授
接合科学研究所
伊藤和博 教授
未来戦略機構
川嶋太津夫 教授
齊藤貴浩 准教授
全学教育推進機構
宇野勝博 教授
佐藤浩章 准教授
インターナショナルカレッジ
UEDA-SARSON LUKE DYLAN 特任准教授（常勤）

研究部門 (108 名)

文学研究科
園府寺司 教授
堤研二 教授
桃木至剛 教授
法学研究科
大久保規子 教授
田中仁 教授
人間科学研究科
苅阪満里子 教授
澤村信英 教授
志水宏吉 教授
稲場圭信 准教授
理学研究科
大鹿健一 教授
岡田美智雄 教授
小木曾啓示 教授
梶原康宏 教授
久野良孝 教授
小林研介 教授
今野巧 教授
長峯健太郎 教授
村田道雄 教授
花垣和則 特任教授（常勤）
砂川秀明 准教授
住貴宏 准教授
寺崎英紀 准教授
医学系研究科
磯博康 教授
上田啓次 教授
片山一朗 教授
金倉譲 教授
金田安史 教授
澤芳樹 教授
竹原徹郎 教授
西田幸二 教授
森正樹 教授
玉井克人 寄附講座教授
中神啓徳 寄附講座教授
中田慎一郎 准教授
南野哲男 准教授
金田眞理 講師
平野賢一 助教
歯学研究科
天野敦雄 教授

西村理行 教授
薬学研究科
小林資正 教授
辻川和丈 教授
堤康央 教授
水口裕之 教授
工学研究科
伊東忍 教授
今中信人 教授
掛下知行 教授
梶島岳夫 教授
河田聡 教授
紀ノ岡正博 教授
倉本洋 教授
兒玉了祐 教授
才田一幸 教授
澁谷陽二 教授
廣瀬明夫 教授
藤本慎司 教授
箕島弘二 教授
森勇介 教授
森島圭祐 教授
山下弘巳 教授
渡部平司 教授
小俣孝久 准教授
垣内弘章 准教授
甲谷寿史 准教授
中西英之 准教授
萩原幸司 准教授
基礎工学研究科
石黒浩 教授
馬越大 教授
清水克哉 教授
鈴木貴 教授
戸部義人 教授
永妻忠夫 教授
野村泰伸 教授
真島和志 教授
松林伸幸 教授
宮坂博 教授
言語文化研究科
大澤孝 教授
生命機能研究科
高島成二 教授

難波啓一 教授
濱田博司 教授
平岡泰 教授
吉森保 教授
明石満 特任教授（常勤）
情報科学研究科
西尾章治郎 教授
東野輝夫 教授
日比孝之 教授
橋本昌宜 准教授
原隆浩 准教授
微生物病研究所
目加田英輔 教授
岩本亮 准教授
産業科学研究所
田中秀和 教授
谷口正輝 教授
永井健治 教授
中谷和彦 教授
松本和彦 教授
吉田陽一 教授
能木雅也 准教授
槇原靖 准教授
楊金峰 准教授
蛋白質研究所
中川敦史 教授
接合科学研究所
田中学 教授
南二三吉 教授
塚本雅裕 准教授
サイバーメディアセンター
松岡茂登 教授
レーザーエネルギー学研究センター
西村博明 教授
免疫学フロンティア研究センター
荒瀬尚 教授
木下タロウ 教授
坂口志文 教授
黒崎知博 特任教授（常勤）

社会・国際貢献部門（4名）
文学研究科
福永伸哉 教授
言語文化研究科
杉田来行 教授
蛋白質研究所
篠原美紀 准教授
核物理研究センター
井手口栄治 准教授
管理運営部門（3名）
産業科学研究所
磯山悟朗 教授
免疫学フロンティア研究センター
磯谷綾子 特任准教授（常勤）
全学教育推進機構
窪田高弘 教授

【総長奨励賞】

教育部門（7名）
高等司法研究科
名津井吉裕 教授
人間科学研究科
KIM VIKTORIYA 特任助教（常勤）
工学研究科
DINO WILSON
AGERICO TAN 准教授
言語文化研究科
岡田悠佑 講師
未来戦略機構
安部有紀子 特任講師（常勤）
適塾記念センター
松永和浩 准教授
インターナショナルカレッジ
ANGKAWIDJAJA
CLEMENT 特任助教（常勤）

研究部門（355名）
文学研究科
矢田勉 准教授
赤尾光春 助教
竹内有子 助教
法学研究科
北村亘 教授
武田邦宣 教授
齋藤由起 准教授
高等司法研究科
松井和彦 教授
村西良太 准教授
経済学研究科
関口倫紀 教授
山本千映 教授
中川功一 准教授
西原理 准教授
国際公共政策研究科
内記香子 准教授
人間科学研究科
岡部美香 准教授
國山大祐 准教授
中澤渉 准教授
森田敦郎 准教授

理学研究科
高橋篤史 教授
山口浩靖 教授
今井薫 准教授
落合理 准教授
中川拓郎 准教授
橋爪章仁 准教授
藤本仰一 准教授
吉田斉 准教授
BAIOTTI LUCA
特任准教授（常勤）
松岡茂 特任准教授（常勤）
青木順 助教
金澤有紘 助教
佐藤朗 助教
諏訪雅頼 助教
高島義徳 助教
高田忍 助教
高橋達郎 助教
谷篤史 助教
中嶋大 助教
中野岳仁 助教
平尾泰一 助教
山下智史 助教
山本茂樹 助教

医学系研究科
河原行郎 教授
中谷明弘 特任教授（常勤）
池田純一郎 准教授
石井豊恵 准教授
伊藤美樹子 准教授
久保盾貴 准教授
永森收志 准教授
二村圭祐 准教授
藤原祐一郎 准教授
松尾直毅 准教授
村松里衣子 准教授
森本壮 准教授
山本英樹 准教授
本多智佳 特任准教授（常勤）
馬場耕一 寄附講座准教授
林竜平 寄附講座准教授
彦惣俊吾 寄附講座准教授
保仙直毅 寄附講座准教授
吉川泰司 寄附講座准教授
植村元秀 講師
白井審一 講師
澤田健二郎 講師
富松拓治 講師
別所一彦 講師
山本浩一 講師
猪口徳一 助教
岡雄一郎 助教
奥野龍禎 助教
押野悟 助教
河盛段 助教
熊澤恵一 助教
黒川幸典 助教
近藤誠 助教
阪森亮太郎 助教
下田雅史 助教
高橋剛 助教
塚本蔵 助教

西村潤一 助教
沼崎穂高 助教
濱田健一郎 助教
藤原智子 助教
松井功 助教
馬淵誠士 助教
宮村能子 助教
柳澤琢史 助教
山本浩一 助教
和田浩志 助教
中森雅之 特任助教（常勤）
藤本文博 特任助教（常勤）
藤田幸 特任助教（常勤）
一井倫子 寄附講座助教
郡山弘 寄附講座助教
今野雅允 寄附講座助教
坂井大介 寄附講座助教

医学部附属病院
井口直也 助教
磯村恵美子 助教
佐々木勉 助教
佐原巨 助教
吉田寿雄 助教
小黒亮輔 特任助教（常勤）

歯学研究科
仲野和彦 教授
中田匡宣 准教授
中村渉 准教授
波多賢二 准教授
阿部真土 講師
加藤隆史 講師
村上智彦 講師
山口哲 講師
朝日陽子 助教
佐々木淳一 助教
佐藤文彦 助教
住友倫子 助教
松田謙一 助教
峯篤史 助教
柳田学 助教
伊藤祥作 講師
工藤千穂 講師
山下元三 助教

薬学研究科
有澤光弘 准教授
岡田直貴 准教授
岡田欣晃 准教授
櫻井文教 准教授
中澤敬信 特任准教授（常勤）
樋野展正 助教
村井健一 助教
山本剛史 助教

工学研究科
芝原正彦 教授
津島将司 教授
安田弘行 教授
秋山庸子 准教授
有馬健太 准教授
飯島一博 准教授
五十嵐浩司 准教授
入江政安 准教授
牛尾知雄 准教授

内山進 准教授
大橋理人 准教授
小野田晃 准教授
金谷一朗 准教授
鎌倉良成 准教授
北野勝久 准教授
久保理 准教授
黒田健 准教授
佐伯昭紀 准教授
佐藤和則 准教授
白土優 准教授
杉原知道 准教授
杉原英治 准教授
杉本秀樹 准教授
關光 准教授
惣田訓 准教授
高田孝 准教授
高橋幸生 准教授
竹内伸太郎 准教授
武田洋平 准教授
垂水竜一 准教授
津田哲哉 准教授
土谷博昭 准教授
鳶巢守 准教授
平方寛之 准教授
平原佳織 准教授
福重真一 准教授
藤井彰彦 准教授
藤田克昌 准教授
本田孝祐 准教授
松浦友亮 准教授
松田崇弘 准教授
松本良 准教授
水上進 准教授
宮本俊幸 准教授
森浩亮 准教授
森直 准教授
山口容平 准教授
吉村政志 准教授
新田直子 講師
赤井美和 助教
雨夜徹 助教
石井克典 助教
岩田孝紀 助教
上向井正裕 助教
大久保雄司 助教
大洞光司 助教
大参宏昌 助教
梶井博武 助教
齋藤真人 助教
澤村淳司 助教
鈴木賢紀 助教
千賀英敬 助教
内藤賀公 助教
長谷川麗 助教
秦吉弥 助教
福原学 助教
細井卓治 助教
堀雄一郎 助教
松崎典弥 助教
松山智至 助教
三島史人 助教
牟田浩明 助教

森裕紀 助教
吉川裕之 助教
高橋英之 特任助教（常勤）
基礎工学研究科
阿部真之 教授
後藤晋 教授
中村芳明 教授
西山憲和 教授
濱屋宏平 教授
赤羽英夫 准教授
内田幸明 准教授
北河康隆 准教授
君塚肇 准教授
境慎司 准教授
清水正宏 准教授
劔隼人 准教授
土井謙太郎 准教授
富士田誠之 准教授
堀口祐憲 准教授
前泰志 准教授
水落憲和 准教授
棕田秀和 准教授
山本俊 准教授
吉川雄一郎 准教授
若林裕助 准教授
鎌谷研吾 講師
平井宏明 講師
池本周平 助教
大戸達彦 助教
岸亮平 助教
木村健太 助教
田原一邦 助教
豊田健二 助教
仲田佳弘 助教
中村暢作 助教
根来誠 助教
花崎逸雄 助教
久武信太郎 助教
満留敬人 助教
宮戸祐治 助教
横田泰之 助教
渡邊陽介 助教
言語文化研究科
井上さゆり 准教授
菅原由美 准教授
竹原新 准教授

菊池正和 准教授
O'DWYER FERGUS JAMES
特任講師（常勤）
生命機能研究科
石井優 教授
浅川東彦 准教授
白鳥秀幸 准教授
竹内裕子 准教授
田村淳 准教授
中野珠実 准教授
濱崎万穂 准教授
南野徹 准教授
渡邉正勝 准教授
平山晃斉 特任講師（常勤）
加藤貴之 助教
高岡勝吉 助教
長谷川純矢 助教
宮澤清太 助教
情報科学研究科
若宮直紀 教授
荒川伸一 准教授
安藤英由樹 准教授
梅谷俊治 准教授
小倉裕介 准教授
前川卓也 准教授
松田史生 准教授
山口弘純 准教授
石尾隆 助教
内山彰 助教
大下福仁 助教
堀崎遼一 助教
微生物病研究所
伊川正人 教授
三木裕明 教授
山本雅裕 教授
藤井徳高 准教授
戴田紀一 准教授
小林剛 特任准教授（常勤）
吉岡靖雄 特任准教授（常勤）
木戸屋浩康 助教
笹井美和 助教
佐藤莊 助教
佐藤裕 助教
船戸洋佑 助教
松田重輝 助教
山崎大輔 助教

産業科学研究所
大岩顕 教授
関谷毅 教授
西野邦彦 教授
家裕隆 准教授
川井清彦 准教授
河原吉伸 准教授
神吉輝夫 准教授
滝澤忍 准教授
多根正和 准教授
筒井真楠 准教授
松田知己 准教授
吉田秀人 准教授
開発邦宏 特任准教授（常勤）
中島良介 特任准教授（常勤）
杉山磨人 助教
山本洋揮 助教
古賀大尚 特任助教（常勤）
蛋白質研究所
栗栖源嗣 教授
大森義裕 准教授
田中秀明 准教授
佐藤毅 講師
北郷悠 助教
佐貫理佳子 助教
松本陽 助教
山下栄樹 助教
接合科学研究所
内田儀一郎 准教授
川入洋介 准教授
桐原聡秀 准教授
茂田正哉 准教授
堤成一郎 准教授
西川宏 准教授
竹中弘祐 助教
超高压電子顕微鏡センター
山崎順 准教授
小林慶太 助教
生物工学国際交流センター
木谷茂 准教授
太陽エネルギー化学研究センター
白石康浩 准教授
保健センター
足立浩祥 准教授
国際教育交流センター
伊藤ゆかり 准教授

知的財産センター
村上画里 特任准教授（常勤）
核物理研究センター
飯田崇史 特任助教（常勤）
鎌野寛之 特任助教（常勤）
サイバーメディアセンター
黒田嘉宏 准教授
伊達達 准教授
義久智樹 准教授
レーザーエネルギー学研究センター
川山巖 准教授
重森啓介 准教授
中嶋誠 准教授
有川安信 講師
佐野孝好 助教
免疫学フロンティア研究センター
伊勢渉 特任准教授（常勤）
鈴木一博 特任准教授（常勤）
中江文 特任准教授（常勤）
西川恵三 特任准教授
華山力成 特任准教授（常勤）
馬場義裕 特任准教授（常勤）
廣田圭司 特任准教授（常勤）
丸山健太 特任助教（常勤）
未来戦略機構
COBAN ISHII CEVAYIR 教授
石井浩二郎 特任准教授（常勤）
中野賢 特任准教授（常勤）
深田宗一郎 特任准教授（常勤）
廣森聡仁 講師
竹下浩平 特任助教（常勤）
全学教育推進機構
中村征樹 准教授
松河秀哉 助教
クリエイティブユニット
伊藤雄一 准教授
大阪大学・金沢大学・
浜松医科大学・千葉大学・
福井大学連合小児発達学研究科
酒井佐枝子 准教授
橋本亮太 准教授
藤谷昌司 助教
インターナショナルカレッジ
井原健太郎 准教授
情報推進機構
柏崎礼生 助教

（平成27年5月31日 時点）

訃報

医学系研究科	佐野榮春 名誉教授	平成27年6月17日 逝去
工学研究科	東孝光 名誉教授	平成27年6月18日 逝去
工学研究科	丸尾大 名誉教授	平成27年6月23日 逝去
人間科学研究科	熊倉博雄 教授	平成27年6月26日 逝去

緒方惟之（おがたこれゆき）さん（平成27年6月2日逝去）
適塾を開いた緒方洪庵から数えて5代目にあたり、整形外科医として従事される傍ら大阪大学適塾記念会理事を務められました。享年90歳。
謹んでご冥福をお祈りいたします。



昨年5月の適塾リニューアルオープンに参加した小学生に語りかける緒方さん（右端）



「先生、うちもやりましょう!」

教員・職員・学生 みんなで「○○○!」

今回のAtoZは、趣向を変えて阪大内の活動に注目。

夏になると、各部局では教職員・学生がみんなで参加して親睦を深めるイベントが数多く開催されます。今回はそんな阪大内のインナーコミュニケーション向上の取組でユニークなものを紹介。この夏、皆さんも何かを企画してみては?

みんなで**SPORTS!** ボウリングやソフトボールに熱くなる部局も。



フットサル大会 (産業科学研究所)



大縄跳び大会 (産業科学研究所)



研究室専用ユニフォームと自作のトロフィー

みんなで**FESTA!** 他にも桜の季節にはお花見や、バーベキューや草刈りをするところも。



産業科学研究所「産研フェスタ」



接合科学研究所「JWRI フェスタ」

みんなと**COMMUNICATION!**



学内異分野交流会
アカデミックバール

部局の枠を超えて知り合う「場」をつくる

専門分野や所属の枠を超えてコミュニケーションを図ろうという動きも広がっています。

大型教育研究プロジェクト支援室のリサーチ・アドミニストレータ (以下 URA) 主催で開催している「アカデミックバール」もその一つ。同じ大阪大学に所属しているけれど、見ず知らずの研究者や事務職員らが集まり、ご飯とお酒をたのしみながら気軽に話ができる「場」を設けようという試験的な企画で、これまでに3度開催されています。きっかけは、URAの活動を通じて多くの研究者から「他の分野の研究者の話も聞いてみたいけれど機会がない」という声を耳にしたこと。

主催者の一人 URA の福島杏子さんは「分野融合や分野横断といった言葉をよく耳にしますが、いざ研究プロジェクトを作ろうと思っても、ウェブ上で検索した人が適しているのか、そもそも自分自身と肌が合うのかはわかりません。自分の大学で働く人が、どんな研究をしているのかを知る「場」があれば、研究プロジェクトを提案する上で役立つかもしれないですし、少し異なる視点から自分の研究や仕事を見ることができるとかと思っています。先ず、過去に私たちのイベントに来てくださった研究者や事務職員などにお声掛けて始めました。今後は参加される方々からこういうテーマで交流会を開催したいという希望を頂ければと思っています。」

先日豊中キャンパスの文理融合型研究棟で開催された第3回目も、研究者、事務職員、学生が飲食を忘れて大いに盛り上がっていました。次回は秋ごろ開催できたらと福島さん。こういった所から、未来の研究の種は生まれるのかもしれない。

■ 参加者の声
工学研究科・小久保研先生
「2回目の参加です。知り合いに歯学や物理が専門の先生がいなかったので参加しました。前回知り合えた先生とは、すぐに意気投合して実際に共同研究を始めています。異分野の先生や、部局外の職員さんたちと話す機会は少ないので、こういった機会は楽しくて有意義ですね。」

大阪大学夏まつり

「キラッとパレット～夏を彩踊（いろど）れ～」を開催

7月4日（土）、箕面キャンパスで大阪大学夏まつりを開催しました。

今年のスローガンは「キラッとパレット～夏を彩踊（いろど）れ～」。

大阪外国語大学時代から続く夏の恒例イベントで、外国語学部らしい、各専攻の民族衣装に身を包んだ学生や日本語を学ぶ留学生も多く訪れ、国際色豊かなイベントです。

天気はあいにくの梅雨空となりましたが、卒業生や近隣の方、地域の子どもたちも多く参加し大いに賑わいました。



ガードナー財団の John Dirks

総裁が阪大を表敬訪問

6月16日（火）、カナダ・ガードナー財団の John Dirks 総裁が大阪大学を表敬し、平野俊夫総長と懇談しました。懇談には、2015 年のガードナー国際賞受賞が決定した免疫学フロンティア研究センター（WPI-IFReC）の坂口志文特別教授（副拠点長）と、2011 年に同賞を受賞した同センター拠点長の審良静男特別教授が同席し、今回の受賞や免疫学研究、阪大の研究力などについて話しました。



（左2人目から）坂口特別教授、平野総長、John Dirks 総裁、審良特別教授

洪庵忌

～適塾の夕べ～を開催

緒方洪庵の命日（旧暦文久3年6月10日）にあわせて適塾で行われる法要で、大阪大学の様々な分野の講義を適塾でできくことで、先人の学びに想いを馳せます。

今年は6月2日に亡くなられた5代当主緒方惟之さんを偲び、全員で黙祷を捧げた後、大竹文雄教授による「所得格差と格差感」と濱田博司教授による「体ができるしくみ：原理の探求から応用への道」の講義が行われました。



阪大内に3つの施設が新たにオープン



医学部附属病院につくられた病児・病後児保育室「あおぞら」



工学研究科のラ・シェーナがリニューアル



7月21日にオープンしたボブラ通り福利会館

高校生の皆さん阪大で研究しませんか？ 大阪大学 SEEDS プログラム

高校生のみなさんの中で将来、サイエンス、テクノロジーの分野で研究者として活躍してみたいけど、でも、どうしたらいいだろうと漠然と考えている方はおられませんか？

大阪大学 SEEDS プログラムに参加すると、みなさんが学校で習う断片的な知識・技能を有機的に結びつけて、さらに自分でテーマをみつけ挑戦するという、研究の基本作法が身につきます。

現在、経験がまったくなくても大丈夫。

大阪大学と一緒に研究してみませんか？

日 時：①A日程 8月8日(土) ②B日程 8月1日(土)

③C日程 7月29日(水) or 30日(木)

選考場所：いずれも大阪大学 豊中キャンパス

実施概要：◇体感科学技術・国際交流(オムニバス形式の講義、留学生との交流、研究施設見学など)

2015年 8/29、9/26、10/31、11/28、12/26、2016年 2/20 の計6回

◇体感科学研究(さまざまな研究や体験に参加)

2015年9月から2016年2月の期間内 数回予定

問合せ先：大阪大学 SEEDS 事務局

TEL：06-6850-8137、8142(月-金 10:00-16:30)

seedsoffice@celas.osaka-u.ac.jp

大阪で初めて「七大学若手会」を開催

「七大学若手会」は国立七大学出身の 45 歳以下の卒業生を対象とする同窓会組織です。

各界の先端に行く著名人を招いての講演会や懇親会などを通じて、大学を横断した交流を深めています。

この度、第3回講演会が初めて大阪で開催されます。講師は石黒浩・大阪大学特別教授です。

開催日時：2015年8月8日(土) 13:00～17:30

開催場所：大阪大学 中之島センター 講義室 703

①受付、若手会設立趣旨説明(13:00～14:00)

②講演会(14:00～15:00)

「人を知るためのロボット研究」

石黒浩(基礎工学研究科)

③懇親会(16:00～17:30)

参加費用：4,000 円

参加方法：七大学若手会ウェブページにより申込。

「大阪大学カード」会員募集 新規入会の方にギフトカードをプレゼント

大阪大学・大阪外国語大学の卒業生、教職員、元教職員だけが持つことができる特別なクレジットカード「大阪大学カード」(三井住友カード(株)との提携カード)の会員を募集しています。

ただ今、新規入会キャンペーンを実施しており、本年中に新規ご入会いただいた方には、特典としてもれなくギフトカードを進呈いたします。

詳細・インターネット申込は「大阪大学カード」特設ウェブページへ。

<http://www.osaka-u.ac.jp/sp/oucard/>

皆さまのご入会をお待ちしています。



完売御礼 大阪大学オリジナルウイスキー 「光吹-MIBUKI-」

大阪大学オリジナルウイスキー「光吹-MIBUKI-」は、4月13日から発売を開始しましたが、限定 1,500 本すべてが売り切れ、販売を終了いたしました。

お買い求めいただいた学生、卒業生等の皆さまから「香りが良い」「おいしい」と好評を博しました。お礼申し上げます。



大阪大学 NewsLetter No.68 を発行

2015 カナダ・ガードナー賞受賞が決まった坂口志文特別教授と審良静男特別教授、平野俊夫総長との特別鼎談、マッサンこと竹鶴政孝さんの生家の竹鶴酒造訪問など盛りだくさんです。

是非ご覧ください。



※この他にもユニークな体験ができるイベント等多く開催予定です。
Web ページをご覧ください。(www.osaka-u.ac.jp/ja/news/seminar)



南部陽一郎 大阪大学特別栄誉教授がご逝去

2008年にノーベル賞物理学賞を受賞した南部陽一郎大阪大学特別栄誉教授が
7月5日急性心筋梗塞のためご逝去されました。94歳でした。
大阪大学として謹んで哀悼の意を表します。



次期総長予定者に 西尾章治郎 情報科学研究科教授を選出

6月12日(金)、総長の任期満了(平成27年8月25日)に伴う次期総長予定者の選考を行い、総長選考会議において 西尾章治郎 情報科学研究科教授(サイバーメディアセンター長)を次期総長予定者として決定しました。

※ インタビュー記事をP.4-P.5に掲載